

# 孤立死を防ぐために！



質問者  
利根川 茂 議員

最近、全国においては地域の中で周囲に気づかれず、亡くなってしまっている人がいます。

幸い、本町のようにコミュニティ・エンパワーメントが保たれている町ではまだ発生していませんが、核家族の進行に伴い高齢者・障害者・シングルマザー等の世帯が増加しています。

地域福祉計画を基に、



上郡老人スポーツ大会

町内の各地域では「ふれあいの集い」や「地域の茶の間」を開き、住民どうしの横のつながりを求めて活動を進めている自治会もありますが、セルフネグレクト（自己虐待）には対応できません。

今後、地域の中で「孤立死」を防ぐために、どのような対応をなされるか。町長のお考えをお示しくください。

**A** 必要な支援を続けます  
回答（町長）

現在の高齢者単身世帯は、335世帯、高齢者夫婦世帯は943世帯である。配食サービスを受けている世帯には、その都度安否確認を行い、それ以外の世帯は民生委員や介護ヘルパーによる訪問活動を実施している。

## 『松田町障害者福祉計画』について



質問者  
廣瀬 幸男 議員

昨年、このような援助活動を拒否された家庭が2例あり、施設へ入所していただいた。今後、社会福祉協議会や地元自治会が開く「ふれあい広場」や「地域の茶の間」と連携し、孤立死を防ぐ支援を続けたい。

第2次松田町障害者計画、第3期松田町障害福祉計画の基本方針3『生活環境・防犯防災体制』の中に、「路線バスの充実」と「障害のある人に配慮したタクシードの促進」とありますが、今後どのように充実していくのか。



社会福祉協議会の移送サービス

町では「ユニバーサルデザインのまちづくり」の施策として、バリアフリー化の一環として、ノンステップバスの更なる普及について、関係機関に働きかけている。しかし、路線をはじめ町内で多くの路線バスを運行している富士急行では、新

**A** 厳しい経営状況なので検討していない  
回答（町長）



地域の茶の間(町屋地域集会施設)

たな導入については、現状の厳しい会社経営の状況下では検討していないという。

「障害のある人に配慮したタクシードの促進」については、今後、利用者に対して聞き取り等の調査をして、必要であれば障害のある人が、より利用しやすくなるように、運転手研修や改造車両（介護タクシー）の導入といったことを、関係機関に要請していく。



ノンステップ(低床)バス

このページは、質問者本人の原稿を尊重し編集しています。